

委員各位

第391回産業事情検討会のご案内

第391回の産業事情検討会を以下の通り開催致します。

当案内状と共にEメールによるご案内も送信しております。同封の葉書またはFAX、あるいはEメール、下記QRコードのいずれかで出欠の有無をご連絡頂きますようお願い申し上げます。

テーマ：近年の労働市場の環境変化と企業経営の展望

講師：坂本貴志氏

リクルートワークス研究所 研究員・アナリスト

司会：大塚寿広（株）現代経営技術研究所 主任研究員

日時：2024年5月31日（金） 15:00～17:00

開催方式：Zoomによるオンライン開催

講師に坂本貴志氏をお招きし、「近年の労働市場の環境変化と企業経営の展望」について検討します。氏の姿勢は一貫して私たちが問題であると認識している状況をむしろ好機と捉えて社会を前進させていこうというものです。

氏は『ほんとうの定年後「小さな仕事」が日本社会を救う』（講談社現代新書）において定年後の「小さな仕事」の役割が増大していく今後を入念に検証し、そういう仕事に敬意を払う社会をつくることを提言し、幸福な高齢社会の1つの像を示しました。

人手不足についてもこう主張します。「市場メカニズムが適切に発露すれば、労働者の賃金上昇率は加速し、労働時間の縮減なども今後は進んでいくはずだ。そうなれば経営の意識も変わらざるを得ない。これまでは「事業に穴はあけられない」として企業が、従業員に無理な働き方を強いることは決してめずらしいことではなかった。しかし、こうした経営者は労働供給制約時代の経済社会を生き抜くことができなくなる。これからは、従業員を大切に思いながら優れた経営を行う企業が生き残っていくことになるはずなのである」（Works Report2023「進む機械化・自動化 変わる働き方」）

氏はその優れたデータ編集力で私たちに労働市場の環境変化を俯瞰した形で提示してくれると思われる。氏の話のうちが、労働市場の動態を捉えた上で、賃金上昇を好機と捉える企業経営を共に考えていきたいと思えます。

ご参加をお勧めします。

I. 労働市場の構造変化の分析と予測

II. 進む機械化・自動化 変わる働き方

III. 対談と相互検討—賃金上昇時代の企業経営の課題

IV. 講師総括—生産性向上の先にある未来

<講師紹介>

1985年生まれ。リクルートワークス研究所研究員・アナリスト。一橋大学国際・公共政策大学院公共経済専攻修了。厚生労働省入省。社会保障制度の企画立案業務などに従事した後、内閣府で官庁エコノミストとして「月例報告」の作成や「経済財政白書」の執筆に取り組む。三菱総合研究所にて海外経済担当のエコノミストを務めた後、2017年10月よりリクルートワークス研究所に参画。

著書：『最新データと図解でみる定年後のお金と暮らし』（宝島社）、『ほんとうの定年後「小さな仕事」が日本社会を救う』（講談社現代新書）『統計で考える働き方の未来』（2020年ちくま新書）



このQRコードから
参加申込みができます

現研 (株)現代経営技術研究所